

＝平成30年度早川南小学校だより＝

はるき



平成30年10月12日

No.28

校長 坂野修一

心を育てるバンドフェスティバルに…



校庭の木々も色づきはじめ、秋の気配が濃くなってきました。本格的な文化・芸術の秋の到来です。既にご承知のとおり、11月18日(日)に第32回山梨県小学生バンドフェスティバルが行われます。運動会終了後、子どもたちは次なる目標にバンドフェスティバルを据え、過日より、週3回の通常練習が再スタートしました。放課後になりますと、パートごとの練習や全体練習の音色が響き、電話番だけを職員室に残し、教職員も含め、学校はバンドフェスティバルの取り組み一色になっています。

本校の吹奏楽活動は47年間も続いてきました。そこで、改めて、本校の吹奏楽活動の歴史をふりかえてみます。

◎早川南小学校吹奏楽活動の歴史

本校の吹奏楽活動の歴史は、それまであった鼓笛隊を「吹奏楽」に編成した昭和46年に始まる。当時はクラブ活動として5年生以上の希望者で構成され、地域の老人ホームの慰問や体育祭、町内音楽会での演奏をなどの活動を行ってきた。

昭和50年代に入り、「吹奏楽活動」を本校教育活動の中核とすることにし、4年生以上の全児童で構成することになった。小学校における、教育課程に位置付けられた管楽器活動としては県内第1号であり、この活動は現在まで途切れることなく続いている。全校体制での活動は、保護者をはじめ地域や町当局からの理解と支援を得る中で、県内はもとより東日本や全国の各種コンクールなどに出場し、数々の賞にも輝いてきた。

近年は、児童数の減少にともない吹奏楽における中規模編成が難しくなってきたことや、教育課程編成上での取り組み時間の確保が厳しくなってきたことなどの理由により、コンクールなどへの出場から発表会への参加へと活動の方向を変えた。児童が音楽に親しむとともに、吹奏楽活動を通して主体的・自主的な態度の育成を目指している。平成20年度には、今までの活動が評価され、山梨県の文化賞である山人会団体奨励賞を受賞した。

また、地域の行事に参加したり、地域の方々を招いての発表会を開催したりすることにより、本校の教育活動への理解や協力がますます強いものとなっている。特に、南アルプス邑コンサートは、雨畑地区の「硯匠庵」が吹奏楽演奏の専門家「おかわり団」とのつながりの中で、本校の吹奏楽活動を応援していただく地域の支えに由来するものである。児童は毎年専門家の演奏に耳を傾けるとともに、専門家の指導を直接受ける素晴らしい機会を得ている。

本年3月27日、初めて早川南小学校の門をくぐり、玄関ホールのショーケースにたくさんのトロフィーや楯が入っていたことに、とても驚いたことを思い出します。1学期の早川山菜祭りに向けて取り組みを終え、新たに3年生を加えてのバンドフェスティバルへの取り組み…。伝統を守るべく毎日頑張りたいと思っています。音楽は心をつなげます。練習を通して、子ども一人ひとりのスキルを上げること、そして楽曲を仕上げることは言うまでもありませんが、補い合うことや励まし合うこと、いたわりあうことや認め合うことも大切に指導をしています。今月23日からは、吹奏楽特別日課が始まります。ご家庭においてのお子様への励ましをどうぞよろしくお願い致します。

毎年お願いしていますバンドフェスティバルのプログラム代金800円につきましては、早速の納入をいただいております。ありがとうございます。趣旨をご理解の上、ご協力を重ねてお願いします。



8月初旬より産休に入っていた深澤絢子先生ですが、昨日16時49分、3460gの元気な男児を無事に産みました。良かった良かった！母子ともに健康だそうです！すくすく元気に育ててくださいね！